



981号
2024年5月21日
郵政産業労働者ユニオン
呉支部発行

←中国地本HPへ
PC・スマホ等から
この情報が閲覧可！

メールはこちら→



2024年3月期の経営成績

(億円)

	日本郵政グループ	日本郵便	ゆうちょ銀行	かんぽ生命
経常収益	119,821	33,314	26,517	67,441
前期比	+8,435 +7.6%	△1,297 △ 3.7%	+5,874 +28.4%	+3,645 +5.7%
経常利益	6,683	21	4,960	1,611
前期比	+106 +1.6%	△774 △97.2%	+404 +8.8%	+436 +37.1%
当期純損益	2,686	72	3,561	870
前期比	△1,623 (※) △37.7	△548 △88.3	+310 +9.5%	△105 △10.8%

(※) 日本郵政が保有しているゆうちょ銀行株式の売却(2023年3月)に伴う持ち分比率の低下の影響が含まれている

2024年3月期 通期業績予想(業績予想の修正後)

経常利益	6,600	150	4,700	1,500
達成率	101.3%	14.6%	105.5%	107.4%
当期純利益	2,700	70	3,350	820
達成率	99.5%	103.9%	106.3%	106.2%

グループ全社が黒字

決算の概要

5月15日、2024年3月期の決算が発表された。

日本郵政グループ全社、黒字を確保した。

郵便・物流事業

取扱数量が、総計で5.3%減少しており、郵便は6.0%減、ゆうメールが7.7%減となった。ゆうパックが3.0%増

加し、ゆうパケットは8.6%増加した。営業収益が前期比80.8億円(3.9%)減収。営業費用は207億円(1.0%)増加し、営業損益は686億円の赤字を計上(前期比1,016億円減)した。

1億円増の229億円。収益の大半は、分譲住宅の販売利益ではあるが、不動産事業は、順調と言える成果を上げている。

しかし、消滅契約の方が多く、保有契約の減少は続いている。

郵便局窓口事業

保険・銀行手数料等が減少しているが、不動産事業の増収により、前期比38.8億円(3.6%)増収となった。

ゆうちょ銀行

営業費用は、前期比15.2億円(1.5%)と増加したが、営業利益は前期比23.6億円(48.0%)の増収。

連結業務純益は、前期比3,255億円減の△1,955億円。当期純利益は前中間期比310億円増の3,561億円。

国際物流事業

営業損益が前期比8億円減の95億円。ロジスティクス事業のみ健闘し、他事業は軒並み厳しい状況が続く。

株式や不動産ファンド等の下支えに加え、株式のリスク調整による売却益が、前期比3,660億円増加。

不動産事業

日本郵便や日本郵政不動産などの不動産における営業収益は前期比60.7億円増の1,000億円。分譲住宅の販売や賃貸等における収益が利益を上げた。営業損益は前期比21

基礎利益は前期比316億円増の2,240億円。当期純利益は10.5億円減の870億円。保険金支払いの減少や新規契約の獲得により、経常利益の改善が見られる。

今後の予定

- 6月4日(火) 18:00~ 野球観戦レク マツダスタジアム
 - 6月11日(火) 17:00~ 第7回呉支部執行委員会 支部事務所
- 次号は 6月4日 予定

通期業績予想

2025年3月期 当期純利益は日本郵政グループで2,800億円の黒字見込み。日本郵便は160億円の赤字見込み。ゆうちょ銀行は3,650億円の黒字見込み。かんぽ生命は790億円の黒字見込み。株主配当は中期・期末に250億円の年間500円予想。また、3,500億円を上限に自己株式取得を実施する予定。

日本郵政グループは、日本郵便を除き、黒字という業績予想となっている。